

特集

ふるさとLOVE

自然を思うこと、人を思うこと。

時代は少しずつ変化しています。経済重視で背伸びをし、もつともつと欲ばるよりも、見過ごしていた日々のくらし、身近な風景のなかに、豊かさを見いだそうじゃないか……と。

人と、自然と、わかちあい、融和することの心地よさ、そしてそれを喜び合える気持ち、本来の価値観を取り戻すヒント、豊かなくらしのための知恵は、身近なところにこそあるものかもしれません。

湊地区では「いけいけ山つ湖」という事業が、10年にわたって続けられています。自然と親しみ、人とふれあうことで、生きる力を育み、地域の財産を継承し、コミュニティを活性化しようという地域独自の取り組みです。「いけいけ山つ湖」から見えてくるものは、何でしょうか。みなとむらまつの準備も始まり、熱気を帯びる活動に注目してみました。

「山つ湖」は未来づくりのコミュニティホーム 子どもたちの元気が、地域を元気に！

いけいけ山つ湖事業委員会会長

有賀 良一さん

山と湖水が迫る土地で、豊かな自然と人のくらしが重なりあって息づき、歴史を育んできた湊地区は、独自に財産区（小坂・花岡両区共有の広大な山林）を持つという特徴的な環境からも、自然とのかかわりを抜きに、地域を語ることはできません。しかし、最近の子どもたちは、外で遊ぶことが少なく、また親世代にしても、山で駆け回った経験のない人も少なからずいらっしゃいます。

湊のかけがえのない財産である自然を子孫に伝えていくには、みんなが自然の大切さを再認識し、思いやりや助け合いの心で、山を守り、人材を育てていかなければ…そうしたいのがわき上がり、小坂・花岡両区の一体感のもと、平成14年に「いけいけ山つ湖事業」が立ち上げられました。

山に入るきつかけをつくり、自然に親しむ機会を増やし、汗をかき、いっしょに作業して子どもにも、その達成感や楽しさを共有してもらうことで、地域を元気に、というのがいけいけ山つ湖の活動です。部会それぞれのもとまりと発展により、人と自然がつながり合い、心を豊かに、活動の輪を大きく広げています。

役員さんに聞きました！

いけいけ山つ湖、そして地域に対する思いや期待…

「山を何とかしなければ…その思いが根っこにある。」



副会長 小口 誠さん

「つらい災害だったけれど、あれから山の管理、育林、安全への関心が一気に高まった。」

「財産区の山は、みんなのきずなを育む場所。」

「しなくては…から一歩進んで、したいな…と思う人が少しでも育てばうれしい。リーダーをどう育成していくか？」

「みんなでやれば楽しい、思った以上にできるという経験は次につながる。」

「すぐに結果が出ることではないが、体験したことは財産。」

「子どもたちの好奇心の芽を摘まないように、親の意識も変える必要が…。」



監査 小口 久一 花岡区長

「時代、社会に合ったかたちで、進めていかないと。共感がないと継承はむずかしいから、考え続けていく。」

「区は、後押しの立場だけれど、いい流れをつないでいくように、湊行政協議会（両区をまたぐ審議や議決の機関）による方向づけに注視し協力していく。」



会長 有賀 良一さん



監査 味澤 孝一 小坂区長



いはいほく湖プロフィール

① しくみ

総務部会

総会や部会長会議の開催、みなとむらまつりの実行委員会、山つ湖だよりの発行などを行っています。

みどり部会

区民や団体で行う山林作業(植樹・除伐)の管理・運営ほか、湊小の遠足での枝打ち体験指導、シイタケの菌打ち講習ほかを実施しています。

コミュニティ部会

みなと保育園児、湊小学校児童から参加者を募って、親子で農作業などを体験。田植え、稲刈り、野菜の植え付け、収穫など、そしてハロウィンのランタンづくりやもちつき大会も行います。

がこ

鷺湖部会

放課後の居場所づくり「あそぼう田」に協力し、郷土色豊かなおやつ作りなどを子どもといっしょに。文化祭やみなとむらまつりでも、食育につながる料理の提案をします。

ボランティア部会

PTAのネットワークなどでボランティアを組織。自然の素材を活用して、親子でクリスマスリース作りをする会などを催します。

② なかみ

「コミュニティ部会の活動から」

感覚全開、

自然とかわる大切な発信！



田植え



稲刈り

畑をつくったよ。夢を育てるよ。(6月19日)



昨年の収穫のようす

コミュニティ部会長

中嶋 一雄さん



育成会の役員を務めた昨年から、山つ湖の活動にか

かわるようになりました。コミュニティ部会は、子どもたちが、楽しみながら自然とふれあう活動を1年を通じて行っています。きょうは、5月に植えたジャンボカボチャとサツマイモの苗のうち、うまく根づかなかったところに元気な苗を補植しました。これからは畑の草取りなどをみんなで見ながら、生育状態を観察し、たくさん収穫できるように育てていきます。田んぼの稲も順調です。

参加した保護者の話

子どもが毎年楽しみにしています。外でどろんこになることって、今はなかなかないですよ。小学生のうちは、こうした農作業をはじめ、いろいろな体験して、感受性豊かに育ってくれたらと、親として活動を応援しています。

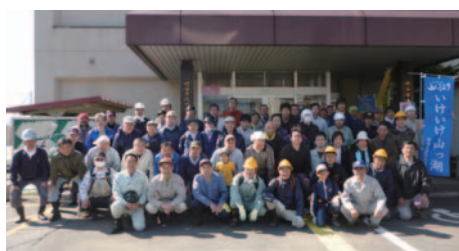
「みどり部会の活動から」
山をたのしみ、川をたのしみ、川をたのしみ、川をたのしみ
植林・間伐・安全管理、そして継承へ。



シイタケの菌打ち



山林作業
参加者のみなさん



植林作業



湊小遠足での枝打ち作業

8月25日(土)は「みなとむらまつり」！
湊小校庭で午前8時30分から開催します

みなとむらまつり実行委員長

小口 誠さん

明治7年、小坂村と花岡村が合併して、湊村が誕生しました。その後、昭和30年に岡谷市と合併しましたが、湊地域がひとつになった日を記念して、「みなとの日」を設定し、湊の文化、歴史を引き継ぎ、地域のまとまりと活力を高めていくため、イベントを開催するようになったと聞いています。

「みなとむらまつり」は、地域住民総参加の代表的なイベントで、今年、第8回を迎えます。屋台など、もともとJAさんに頼っていた部分にも、山、湖、住民、事業所などが協力し、特色のあるテント村に発展、地域の方でやるという進化、子どもたちの自主性が可能性を広げるなど、充実の手応えを感じています。地域のパワーを結集し、一丸となって、むらまつりをきっかけに地域のほかの活動にも興味を持っていくなど、広がりにも期待し、準備にも気合いが入ります。みんながんばっていますよ。

むらまつりでお会いしましょう。湊のみなさんはもちろん、市域全域から、どしどしお出かけください。

岡谷南部中3年生は、いつもお世話になっている地域に、感謝の気持ちを示したいと「子ども屋台」と「ダンス」で、まつりへの参加を表明。実行委員会の会議にも出席しました。恒例のブラスバンド演奏に加えて、鷺湖部会の料理出店の手伝いも生徒がする予定です。子どもたちが夢をふくらませる姿に、集まった役員も元気をもらい、現在、まつりの準備は着々と進んでいます。

子ども屋台を出店する同中3年2組では、地元食材で、みんなが大好きな「うなぎ」を、昨年ふるさとCM制作の題材とした経験を活かし、学校の近所にある川魚店、丸中清水屋さんに向けて協力を依頼。清水屋さんとのコラボによる本格的なうなぎの蒲焼きと、蒲焼きやうなぎのたれを使った生徒考案の創作料理を屋台に出すべく、本番に向けて準備を進めています。



まつりに向けて
Get ready!!

清水屋さんで打ち合わせをする南中生。
清流で活メしているうなぎを実際に見て触って企画を練る